

借入金利の上昇、 企業の 55.0%が 「マイナスの影響」

企業体質の強化を通じた
利益重視の傾向高まる

神奈川県・金利上昇に関する企業の影響度調査



本件照会先

堀 皓貴
帝国データバンク
横浜支店情報部
045-641-0380(直通)
情報部: info.yokohama-jouhou@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/05/20

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

借入金利の上昇に対して、企業の 55.0%が業績に「マイナスの影響がある」と考えていた。具体的には、「返済負担の増加」や「利益の減少」を挙げる企業が多かった。一方で、「利益率の低い事業を縮小」「利益率の高い事業を拡大」など、利益率を重視するという意見もあった。また、借入金利が 1%上昇した場合には、財務体質の改善などの対応策を考える企業も多い。

※ 調査期間は 2025 年 3 月 17 日～3 月 31 日。調査対象は県内 1240 社で、有効回答企業数は 516 社(回答率 41.6%)

日本銀行は2024年3月、マイナス金利政策を転換して政策金利を引き上げた。さらに、同年7月に0.25%、2025年1月に政策金利を0.5%程度への引き上げを決定した。その後、長短プライムレートが上昇するなかで、住宅ローン金利をはじめ金融機関による各種金利も上昇が続いてきた。今後も、市場金利や借入金利の上昇が見込まれる。

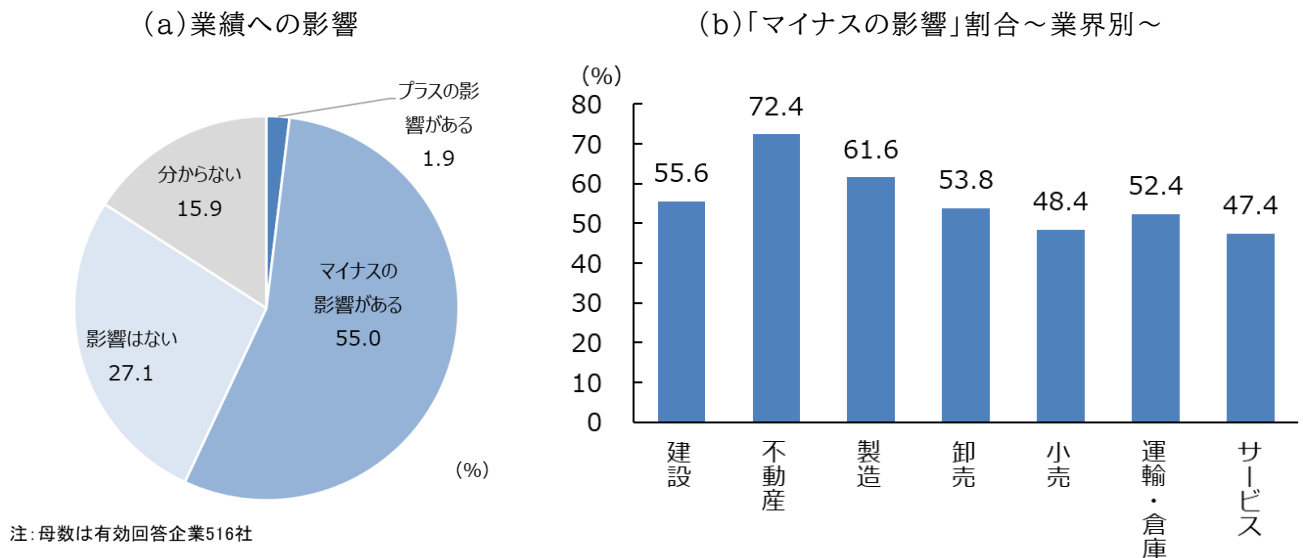
そこで、帝国データバンク横浜支店は、借入金利上昇による企業への影響などについて調査を実施した。本調査は、TDB 景気動向調査 2025年3月調査とともにを行った。

借入金利の上昇、企業の55.0%が業績に「マイナスの影響」

借入金利が上昇した場合の業績への影響について尋ねたところ、「マイナスの影響がある」と考えている企業は55.0%となった。「プラスの影響がある」は1.9%、「影響はない」は27.1%となり、これらを合計しても3割未満にとどまった(図表1-a)。

「マイナスの影響がある」を業界別にみると、『不動産』が72.4%で最も高く、『製造』(61.6%)、『建設』(55.6%)が続いた(図表1-b)。

図表1 借入金利の上昇による業績への影響～全体、業界別～



具体的影響では「返済負担が増える」が71.5%でトップ

借入金利の上昇で業績に「マイナスの影響がある」企業にその具体的影響を尋ねたところ、「返済負担が増える」が71.5%(複数回答、以下同)で最も高かった。次いで、「利益が減る」が46.5%と約半数を占めたほか、「資金繰りが厳しくなる」(28.5%)が続いた。

企業からは、

- ・「得意先企業の設備投資意欲の減退」(機械・器具卸売)
 - ・「賃貸収入の上昇と金利の上昇が同時であれば良いが、一方的に金利が上がってしまうと困る。」(不動産)
- などの声が聞かれた。

一方で、業績に「プラスの影響がある」企業では、「金利収入が増える」(50.0%)、「売上高が増える」(30.0%)などとなった。

図表2 借入金利の上昇による具体的影響(複数回答)

(%)			(%)		
「マイナスの影響がある」			「プラスの影響がある」		
1	返済負担が増える	71.5	1	金利収入が増える	50.0
2	利益が減る	46.5	2	売上高が増える	30.0
3	資金繰りが厳しくなる	28.5	3	利益が増える	20.0
4	売上高が減る	9.2		その他	0.0
5	保有債券の価格が下がる	2.1	注:母数は、金利上昇により「プラスの影響がある」と回答した企業10社		
	その他	1.1			

注:母数は、金利上昇により「マイナスの影響がある」と回答した企業284社

自社事業への対処、「事業内容は変えない」が最多、「利益率の低い事業を縮小する」は 12.6%

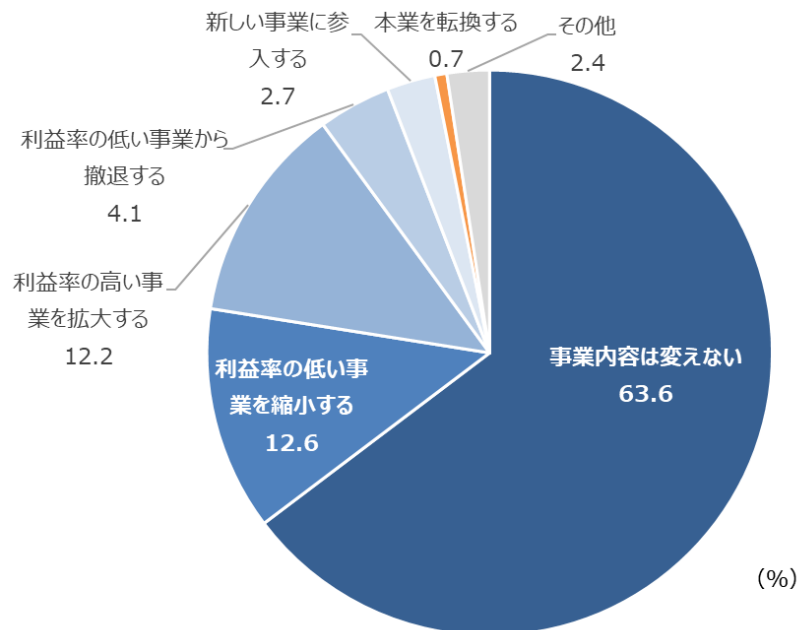
借入金利の上昇で業績にプラスまたはマイナスの影響がある企業に対して、自社の事業での対処法を尋ねたところ、「事業内容は変えない」が 63.6%で最も高かった。以下、「利益率の低い事業を縮小する」(12.6%)、「利益率の高い事業を拡大する」(12.2%)、「利益率の低い事業から撤退する」(4.1%)、「新しい事業に参入する」(2.7%)となった。金利の上昇にともない、利益率の低い事業を整理しようとする動きがうかがえる。

企業からは、

- ・「利益率を高める施策を展開、また DX を活用した効率化を推進する」(リース・賃貸)
- ・「借入金を返済して、利息の負担を減らす」(機械製造)
- ・「少しずつ賃料を上げていく」(不動産)

などの声があがった。

図表3 借入金利の自社事業への対処法



注：母数は、金利上昇により業績に「プラスの影響がある」または「マイナスの影響がある」と回答した企業294社

金利 1%上昇で、「財務体質の改善」「価格転嫁(値上げ)」を実施

今後、借入金利が 1% 上昇した場合、どのような対策を行うか尋ねたところ、「財務体質を改善する」が 25.8% (複数回答、3 つまで。以下同) で最も高かった。以下、「価格転嫁(値上げ)を行う」(20.7%)、「借入金を前倒して返済する」(20.0%) が 2 割台で続いた。

企業からは、

- ・「借り入れを減らす」(飲食料品小売)
 - ・「得意先からの入金管理の厳格化を行っていく」(卸売)
 - ・「借入金ゼロのスタンスをキープし、新たな経費節減に努めていく」(その他サービス)
- などの意見が聞かれる一方、「特に対策はない」との声も複数寄せられた。

図表4 借入金利が1%上昇したときに行う対策(複数回答、3つまで)～上位10項目～

		(%)
1	財務体質を改善する	25.8
2	価格転嫁(値上げ)を行う	20.7
3	借入金を前倒して返済する	20.0
4	金利の引き下げ交渉を行う	18.0
5	設備投資を先送りする	14.5
6	在庫を削減する	10.9
7	交通費などの経費を削減する	9.1
8	返済期間の延長などを行う	8.7
9	必要運転資金を縮小する	7.9
10	取引金融機関を変更する	7.0

注：母数は有効回答企業516社

まとめ

本調査の結果、借入金利が上昇した場合、企業の55.0%が自社の業績に「マイナスの影響」を見込んでいた。特に「返済負担の増加」や「利益の減少」を懸念する企業が多かった。実際に、中小企業からは「中小企業にとって金利の上昇は経営に直結する問題。無借金経営をしていればよいが、そのような会社はまれだろう。金利の上昇分以上の景気の拡大策を早急にとっていただきたい」(建設)といった意見もあがっていたが、これが企業の直面している実態を表している。

一方では、利益率の高い事業の拡大や、逆に利益率の低い事業の縮小・撤退などを視野に入れる企業も少なくない。こうした傾向は、企業体質を強化し、高収益企業へとつながる重要な視点となる。また、借入金利が1%上昇した場合に、価格転嫁(値上げ)で対応する企業も2割以上あった。

「金利のある世界」においては、従来の低金利下で得られた成功体験から意識を切り替える必要があり、価格転嫁など利益を確保する経営を進めることが、企業が成長するカギになるだろう。